



CPDM

Center for Photodynamic Medicine  
Kochi Medical School, Kochi University

# NEWS LETTER 光線医療センター

2026年 第4号

## 光線医療班に医学科2年生の市原楓大さんと池田翔さんが加わりました。

光線医療班に医学科2年の市原楓大さんと池田翔さんが新たに加わりました。

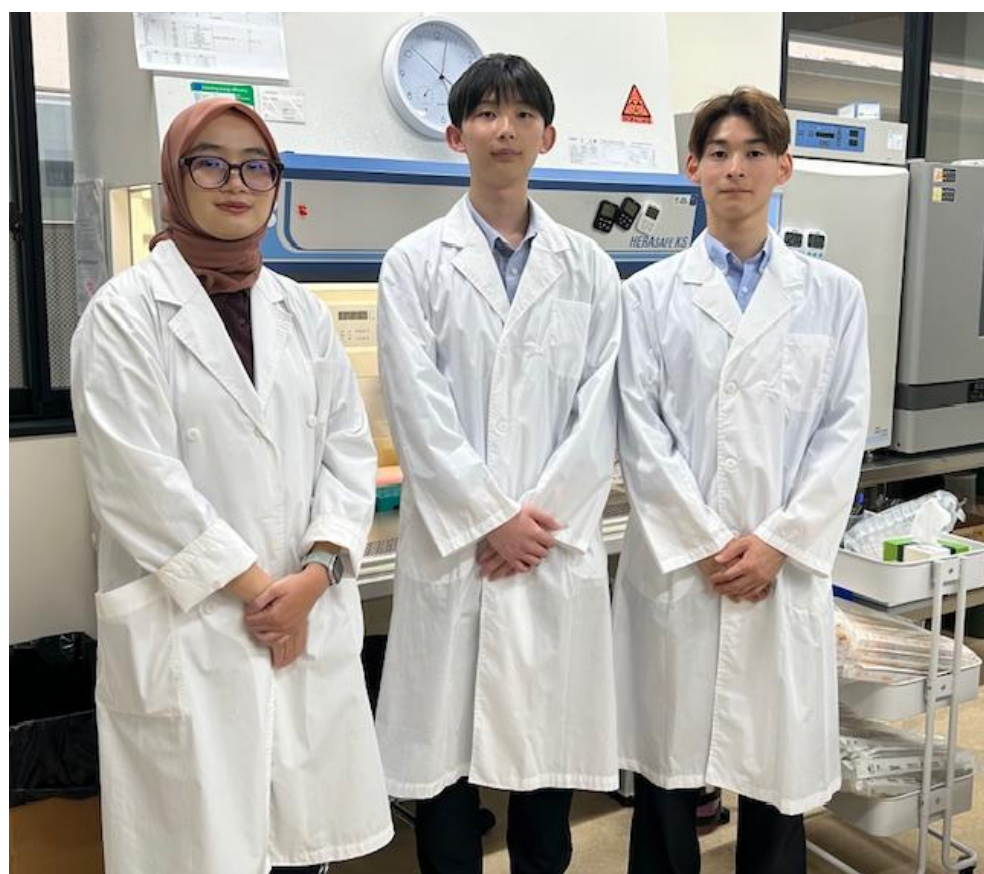
### 市原楓大さんの御挨拶

私は医学部医学科2年の市原楓大です。まず高知大学を選んだ理由は、大きく2つほどあります。1つは、私は高知県出身で、これから高知県で従事する医師になるために高知大学での経験がとても役に立つと考えたからです。また、2つ目に私が今所属している泌尿器科の光線医療班にとっても惹かれたことです。医学部長である井上教授が私の母校に光線医療の説明に来た時から、ぜひこの研究班で学びたいと思いました。これらの理由で私は高知大学に入り、光線医療班に所属しました。また、今後の目標としては、学生の頃から研究に触れた経験と光線医療班で学んだことを活かして患者さんにとって負担の少ない医療を提供したいと考えております。

### 池田翔さんの御挨拶

医学部医学科2年の池田翔です。長野県出身です。地域医療に強い関心があり、医療資源が限られる地域で実践的な医療を学びたいと考え、高知大学を志望しました。特に高知大学は地域医療に力を入れており、現場に近い形で学べる点に魅力を感じています。また、低侵襲で患者への負担が少なく、診断から治療まで一貫して行える光線医療に大きな可能性を感じ、高齢化が進む地域医療においても重要な役割を果たすと考え興味を持ちました。今後は学生のうちから基礎研究の知識と技術を身につけ、高知大学で行われている光線医療の研究を国内外に発信するとともに、その成果を地域医療に還元し、地域の患者さんにより良い医療を提供できる医師になることを目標としています。

今後の2人の研究の成果や成長・活躍が楽しみです。

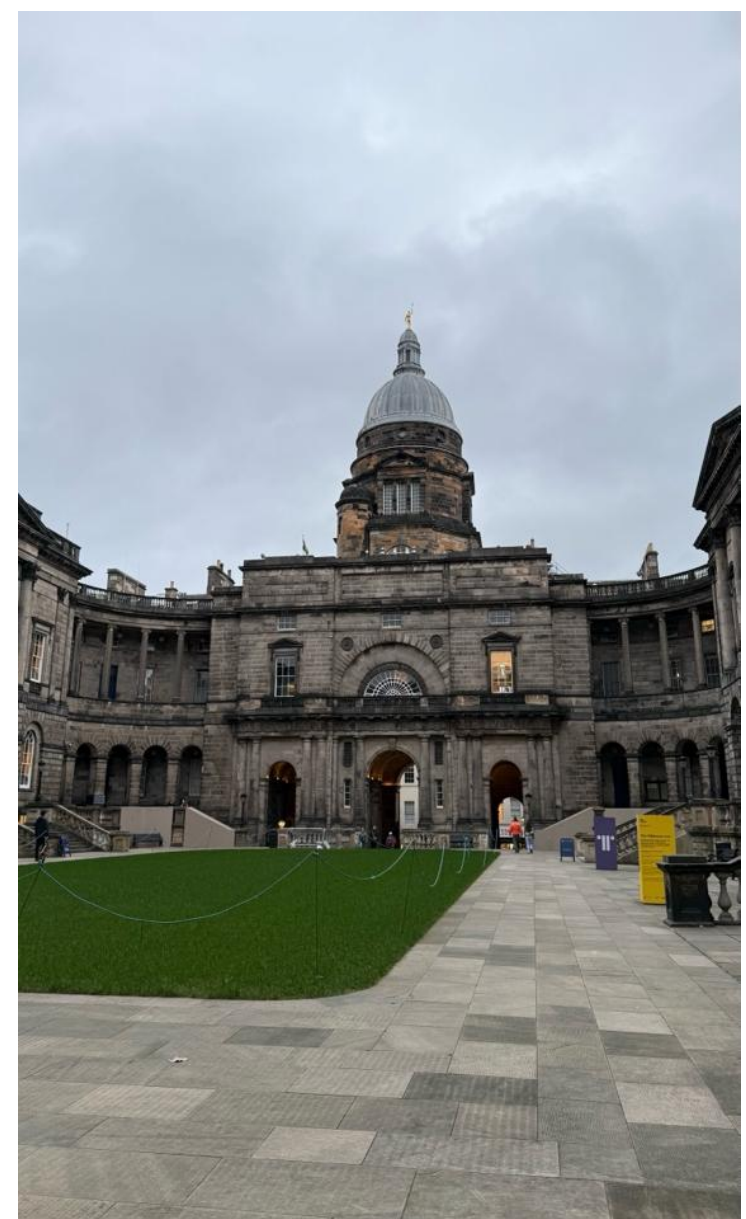
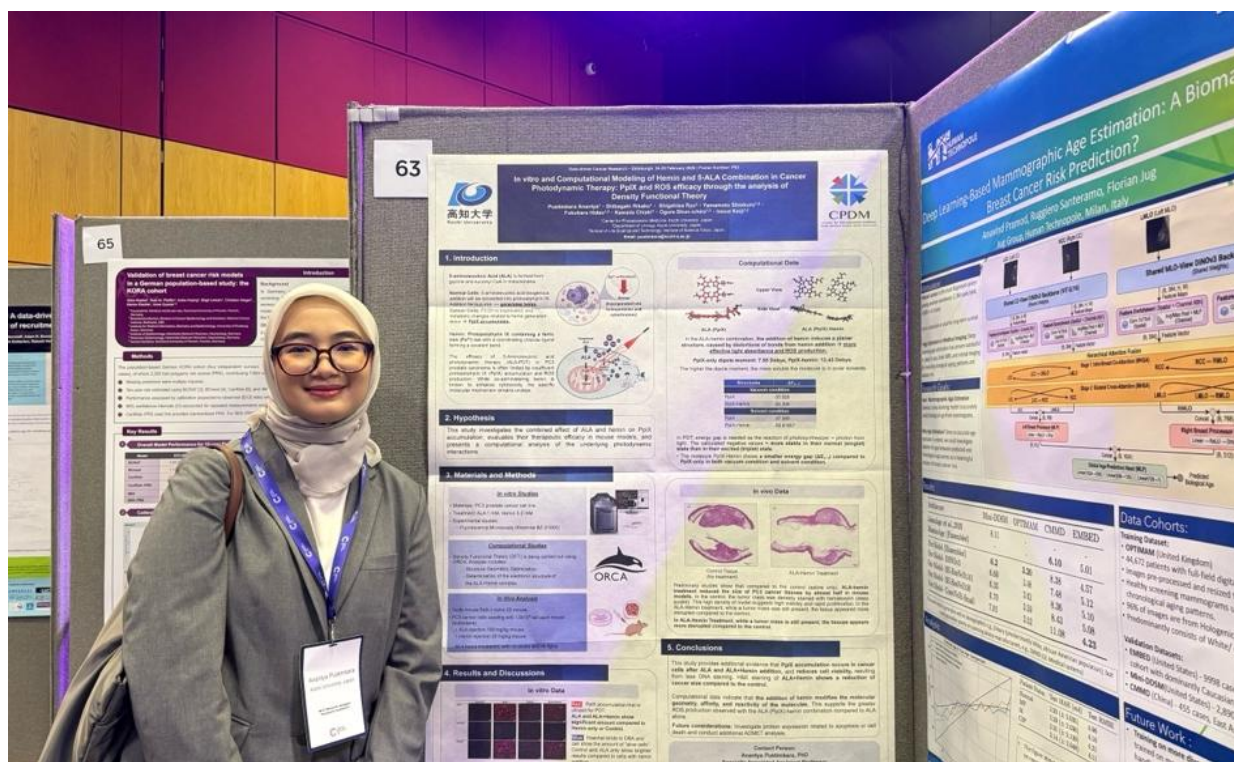


## Anantya Pustimbara先生が国際学会で発表を行いました。

Representing Kochi Medical School's Center for Photodynamic Medicine (CPDM), Dr. Anantya Pustimbara presented her research study at the International Conference on「Data-Driven Cancer Research」 in Edinburgh, UK (February 24-26, 2026). The conference focused on exploring the future of data-enabled oncology, highlighting how tools and technologies transform our understanding of cancer.

Building on in vitro and in vivo data, her studies at CPDM were expanded to include structural and molecular insights via computational analysis. This analysis demonstrated that, in addition to having a lethal effect on targeted cancer cells, the combination of ALA and Hemin, used as an alternative approach in photodynamic therapy (PDT), alters the molecular structure of the compounds. This modification makes the treatment more effective in PDT. Dr. Pustimbara also gained the opportunity to network with international researchers and visit the University of Edinburgh. Drawing on this valuable experience, all of us at the Center will strive for further advancement. We look forward to your continued support!

高知大学医学部光線医療センター(CPDM)を代表して、Anantya Pustimbara 先生が、英国エディンバラで開催された国際会議「Data-Driven Cancer Research」(2026年2月24日～26日)にて研究発表を行いました。本会議は、データを活用した腫瘍学の未来を探求することに焦点を当て、ツールや技術がいかにしてがんに対する理解を変革しているかを強調するものでした。In vitroおよびin vivoのデータに基づき、CPDMにおける彼女の研究は、計算機解析による構造的・分子的知見を取り入れる形で拡大されました。この解析により、光線力学療法(PDT)の代替アプローチとして用いられるALAとヘミンの組み合わせは、標的となるがん細胞に致命的な効果をもたらすだけでなく、化合物の分子構造を変化させることが明らかになりました。この変化により、PDTにおける治療効果が高まります。Anantya先生はまた、国際的な研究者とのネットワークを築き、Edinburgh Universityを訪問する機会も得ました。この貴重な経験を活かし、当センターのスタッフ一同、さらなる進歩を目指して尽力してまいります。今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます！



## 光線医療 関連発表

下記の光線医療関連の発表が行われました。

[筆頭] 松本 宗一、伊藤 広明、手島 直則

「当科におけるアルミノックス治療の現況」

2026年4月19日 第46回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会高知県地方部会総会、高知

[筆頭] 井上 啓史

「癌に対する逐次光線医療」

2026年4月9日 福井県泌尿器科医会4月例会

[筆頭] 井上 啓史

「最先端の癌医療-ALAを用いた光線医療-光による癌のスクリーニング！診断！そして治療！」

2026年4月13日 株式会社先制医療推進機構 SPECIAL SEMINAR

[筆頭] Keiji Inoue, Tsutomu Shimamoto, Hideo Fukuhara, Satoshi Fukata

「Experience in clinical development of photodynamic diagnosis」

2026年4月24日 第113回日本泌尿器科学会総会 泌尿器科腫瘍部会 ワークショップ 7

エビデンスの作り方: 医師主導治験と多施設共同研究の実際

光線医療センター ニュースレター

2026年 4月 27日 発行

発行責任者・編集責任者：井上 啓史

(高知大学医学部 光線医療センター センター長)

文責：福原 秀雄

<https://www.kochi-u.ac.jp/kms/CPDM/index.html>